

《第68回》平成三十年十一月の作品

十一月九日（金） 於文京シビックセンター5D

榎櫃の実坂を転がり道の辺に
（貴美）

象山壕より出でて見上ぐる秋の晴
（平六）

温め酒飲めばこぼるる国訛
（芙沙）

岩を割く大樹は桜紅葉かな
（隆治）

宗像の神宝ここに今朝の冬
（孝昭）

黄落や香煙絶えぬ文殊堂
（清助）

長らふる妻へ声かけ秋夕焼
（前歩）

上田近郊・稲倉棚田

明日には刈らるる棚田黄金色
（奉男）

ボール追ふ児を父が追ふ文化の日
（一江）

象山に穿つ隧道そぞろ寒
（正雄）

友人の叙勲祝いの句

菊咲くや踏み来し道をなほ進み
（正佳）